

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	科学と人間生活	前期2単位	6	10	8

◇科目の目標

自然の事物や現象について理解し、人間と自然のかかわりについて考察する。人間を含めた自然に対する総合的な見方や考え方を養う。

◇科目の概要

生活に密着した科学の事象について、また、我々を取り巻く環境について学ぶ。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習し、レポートを作成していく。スクーリングに参加する。

◇履修にあたっての留意点

教科書を十分に活用する。NHK高校講座なども参考にするとよい。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授業内容	教科書 ページ
1	4/27,28	1	生命の科学 微生物とその利用	p14~37
2	5/4,5	1	微生物とその利用 ヒトの生命現象	p30~45
3	5/11,12	2	ヒトの生命現象 物質の科学	p46~69
4	5/18,19	2.3	生命の科学・物質の科学 材料とその再利用	p70~81
5	5/25,26	3	物質の科学 材料とその再利用・衣料と食品	p82~115
6	6/22,23	4	光や熱の科学 光の性質とその利用	p116~137
7	6/29,30	4.5	光の性質とその利用 熱の性質とその利用	p138~147
8	7/6,7	5	光や熱の科学・宇宙や地球の科学 太陽と地球	p148~179
9	7/13,14	6	宇宙や地球の科学 自然景観と自然災害	p180~189
10	7/20,21	6	宇宙や地球の科学 自然景観と自然災害	p190~207

◇テスト範囲

中間	レポート 1, 2, 3	期末	レポート 4, 5, 6
----	--------------	----	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。

観点別評価①【知識・技能】主としてテストによる学習の定着度から評価します。
A:よく学習しているもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価②【思考・判断・表現】レポートの取り組みから総合的に判断します。
A:しっかり取り組んでいるもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価③【主体的に学習に取り組む態度】出席状況と学習態度を合わせて評価します。
A:出席状況がよく、積極的に学習に取り組んでいるもの
B:合格基準を超えたもの C:合格基準に達しないもの

◇使用教科書

科学と人間生活 東京書籍

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	科学と人間生活	後期2単位	6	10	8

◇科目の目標

自然の事物や現象について理解し、人間と自然のかかわりについて考察する。人間を含めた自然に対する総合的な見方や考え方を養う。

◇科目の概要

生活に密着した科学の事象について、また、我々を取り巻く環境についてまなぶ。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習し、レポートを作成していく。スクーリングに参加する。

◇履修にあたっての留意点

教科書を十分に活用する。NHK高校講座なども参考にするとよい。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授業内容	教科書 ページ
1	10/5,6	1	生命の科学 微生物とその利用	p14~37
2	10/12,13	1	微生物とその利用 ヒトの生命現象	p30~45
3	10/19,20	2	ヒトの生命現象 物質の科学	p46~69
4	10/26,27	2.3	生命の科学・物質の科学 材料とその再利用	p70~81
5	11/2,3	3	物質の科学 材料とその再利用・衣料と食品	p82~115
6	11/30,12/1	4	光や熱の科学 光の性質とその利用	p116~137
7	12/7,8	4.5	光の性質とその利用 熱の性質とその利用	p138~147
8	12/14,15	5	光や熱の科学・宇宙や地球の科学 太陽と地球	p148~179
9	12/21,22	6	宇宙や地球の科学 自然景観と自然災害	p180~189
10	1/11,12	6	宇宙や地球の科学 自然景観と自然災害	p190~207

◇テスト範囲

中間	レポート 1, 2, 3	期末	レポート 4, 5, 6
----	--------------	----	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。

観点別評価①【知識・技能】主としてテストによる学習の定着度から評価します。
A:よく学習しているもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価②【思考・判断・表現】レポートの取り組みから総合的に判断します。
A:しっかり取り組んでいるもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価③【主体的に学習に取り組む態度】出席状況と学習態度を合わせて評価します。
A:出席状況がよく、積極的に学習に取り組んでいるもの
B:合格基準を超えたもの C:合格基準に達しないもの

◇使用教科書

科学と人間生活 東京書籍

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	化学基礎	前期2単位	6	10	8

◇科目の目標

「物質」「物質構成粒子」の観点から、自然界の成り立ちについて理解を深める。化学反応に関する諸課題を扱い、基本的な概念や原理・法則を理解させるとともに、科学的な自然観を育てる。

◇科目の概要

物質の成り立ちと化学反応を学ぶことで、自然界の物体の成り立ちについて学習する。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。スクーリングに参加し、理解を深める。

◇履修にあたっての留意点

教科書をよく読み、理解を深める。実験や観察をしていくのが理科の基本であるが、時間的な制約があるので、NHKの高校講座などを参考にしていく。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポート	授業内容	教科書ページ
1	4/27,28	1	物質の成分と構成元素	6~30
2	5/4,5	2	原子の構造と原子の周期表・原子の構造	34~39
3	5/11,12	2	原子の構造と原子の周期表・電子配置と周期表	40~47
4	5/18,19	3	化学結合・イオン結合	48~55
5	5/25,26	3	化学結合 ・共有結合・金属結合	56~77
6	6/22,23	4	物質量と化学反応式	80~85
7	6/29,30	4	物質量と化学反応式 ・物質量・化学反応式	86~104
8	7/6,7	5	酸と塩基・水素イオン濃度とpH	106~123
9	7/13,14	5/6	酸と塩基・中和滴定 酸化還元反応	124~134 136~151
10	7/20,21	6	酸化還元反応・酸化還元反応の応用	152~164

◇テスト範囲

中間	レポート 1, 2, 3	期末	レポート 4, 5, 6
----	--------------	----	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。

観点別評価①【知識・技能】主としてテストによる学習の定着度から評価します。
A:よく学習しているもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価②【思考・判断・表現】レポートの取り組みから総合的に判断します。
A:しっかり取り組んでいるもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価③【主体的に学習に取り組む態度】出席状況と学習態度を合わせて評価します。
A:出席状況がよく、積極的に学習に取り組んでいるもの
B:合格基準を超えたもの C:合格基準に達しないもの

◇使用教科書

新編 化学基礎 東京書籍

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	化学基礎	後期2単位	6	10	8

◇科目の目標

物質「物質構成粒子」の観点から、自然界の成り立ちについて理解を深める。化学反応に関する諸課題を扱い、基本的な概念や原理・法則を理解させるとともに、科学的な自然観を育てる。

◇科目の概要

物質の成り立ちと化学反応を学ぶことで、自然界の物体の成り立ちについて学習する。生物の特徴、

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。スクーリングに参加し、理解を深める。

◇履修にあたっての留意点

教科書をよく読み、理解を深める。実験や観察をしていくのが理科の基本であるが、時間的な制約があるので、NHKの高校講座などを参考にしていく。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポート	授業内容	教科書ページ
1	10/5,6	1	物質の成分と構成元素	6~30
2	10/12,13	2	原子の構造と原子の周期表 ・原子の構造	34~39
3	10/19,20	2	原子の構造と原子の周期表 ・電子配置と周期表	40~47
4	10/26,27	3	化学結合 ・イオン結合	48~55
5	11/2,3	3	化学結合 ・共有結合 ・金属結合	56~77
6	11/30,12/1	4	物質と化学反応式	80~85
7	12/7,8	4	物質と化学反応式 ・物質質量 ・化学反応式	86~104
8	12/14,15	5	酸と塩基 ・水素イオン濃度とpH	106~123
9	12/21,22	5/6	酸と塩基 ・中和滴定 酸化還元反応	124~134 136~151
10	1/11,12	6	酸化還元反応 ・酸化還元反応の応用	152~164

◇テスト範囲

中間	レポート 1, 2, 3	期末	レポート 4, 5, 6
----	--------------	----	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。

観点別評価①【知識・技能】主としてテストによる学習の定着度から評価します。
A:よく学習しているもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価②【思考・判断・表現】レポートの取り組みから総合的に判断します。
A:しっかり取り組んでいるもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価③【主体的に学習に取り組む態度】出席状況と学習態度を合わせて評価します。
A:出席状況がよく、積極的に学習に取り組んでいるもの
B:合格基準を超えたもの C:合格基準に達しないもの

◇使用教科書

新編 化学基礎 東京書籍

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	生物	通年3単位	9	14	12

◇科目の目標

生物や生物現象に対する探究心を高め、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。

◇科目の概要

生命現象と物質、遺伝、生殖と発生、環境応答、生態、進化と系統について学ぶ。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。

◇履修にあたっての留意点

教科書をよく読み、面接での解説を聞き、理解を深める。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポート	授業内容	教科書ページ
1	4/27.28	1	共通性と多様性をつなぐ進化、生命の誕生	8~15
2	5/4.5	2	生命の多様性と地球環境の変化	16~19
3	5/11.12	2	生命の変遷	22~29
4	5/18.19	3	遺伝的変異が生じるしくみ	28~85
5	5/25.26	3	細胞を構成する成分	88~93
6	6/22.23	4	細胞膜の透過、細胞の構造	94~102
7	6/29.30	5	タンパク質の構造	103~107
8	7/6.7	5	酵素としてはたらくタンパク質	110~121
9	7/20.21	6	遺伝子と染色体、複対立遺伝子	32~33
10	10/12.13	6	代謝とエネルギー、呼吸	128~159
11	10/26.27	7	遺伝情報とその発現、発生運命と遺伝子発現	160~211
12	11/30 12/1	8	クローン技術、遺伝子操作	212~224
13	12/7.8	8	ニューロン、興奮の伝導	225~273
14	12/21.22	9	興奮の伝達、神経系、反射、行動	274~317

◇テスト範囲

前期	レポート 1, 2, 3, 4, 5	後期	レポート 6, 7, 8, 9
----	--------------------	----	-----------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。

観点別評価①【知識・技能】主としてテストによる学習の定着度から評価します。
A:よく学習しているもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価②【思考・判断・表現】レポートの取り組みから総合的に判断します。
A:しっかり取り組んでいるもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価③【主体的に学習に取り組む態度】出席状況と学習態度を合わせて評価します。
A:出席状況がよく、積極的に学習に取り組んでいるもの
B:合格基準を超えたもの C:合格基準に達しないもの

◇使用教科書

生物 東京書籍

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	生物基礎	前期2単位	6	10	8

◇科目の目標

「階層性」「進化」の観点から、生物の世界について理解を深める。生物や生命現象に関する諸課題を扱い、基本的な概念や原理・法則を理解させるとともに、科学的な自然観を育てる。

◇科目の概要

生物の特徴、遺伝子とその働き、生物の体内環境の維持、生物の多様性と生態系について学習する。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。スクーリングに参加し、理解を深める。

◇履修にあたっての留意点

教科書をしっかり読むことで基礎的な理解を深める。理科の基本である実験や観察については時間的な制約もあり、NHKの高校講座などを活用していく。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポート	授業内容	教科書ページ
1	4/27.28	1	生物の多様性と共通性 細胞の特徴	10~20
2	5/4.5	1,2	生物とエネルギー 酵素のはたらき	20~42
3	5/11.12	2	遺伝情報とDNA DNAの複製と分配	43~57
4	5/18.19	3	遺伝情報とタンパク質の合成 タンパク質と遺伝情報	58~62
5	5/25.26	3	遺伝情報とタンパク質の合成 細胞の分化と遺伝子	63~73
6	6/22.23	4	ヒトの体を調節するしくみ 体内環境	74~99
7	6/29.30	4	ヒトの体を調節するしくみ 神経系による情報伝達	74~99
8	7/6.7	5	免疫のはたらき 免疫のしくみ	100~105
9	7/13.14	5	免疫の応用 免疫とさまざまな疾患	106~119
10	7/20.21	6	生物の多様性と生態系 植生と遷移 バイオーム	120~165

◇テスト範囲

中間	レポート 1, 2, 3	期末	レポート 4, 5, 6
----	--------------	----	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。

観点別評価①【知識・技能】主としてテストによる学習の定着度から評価します。

A:よく学習しているもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価②【思考・判断・表現】レポートの取り組みから総合的に判断します。

A:しっかり取り組んでいるもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価③【主体的に学習に取り組む態度】出席状況と学習態度を合わせて評価します。

A:出席状況がよく、積極的に学習に取り組んでいるもの

B:合格基準を超えたもの C:合格基準に達しないもの

◇使用教科書

新編 生物基礎 東京書籍

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	生物基礎	後期2単位	6	10	8

◇科目の目標

「階層性」「進化」の観点から、生物の世界について理解を深める。生物や生命現象に関する諸課題を扱い、基本的な概念や原理・法則を理解させるとともに、科学的な自然観を育てる。

◇科目の概要

生物の特徴、遺伝子とその働き、生物の体内環境の維持、生物の多様性と生態系について学習する。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。スクーリングに参加し、理解を深める。

◇履修にあたっての留意点

教科書をしっかり読むことで基礎的な理解を深める。理科の基本である実験や観察については時間的な制約もあり、NHKの高校講座などを活用していく。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポート	授業内容	教科書 ページ
1	10/5.6	1	生物の多様性と共通性 細胞の特徴	10~20
2	10/12.13	1,2	生物とエネルギー 酵素のはたらき	20~42
3	10/19.20	2	遺伝情報とDNA DNAの複製と分配	43~57
4	10/26.27	3	遺伝情報とタンパク質の合成 タンパク質と遺伝情報	58~62
5	11/2.3	3	遺伝情報とタンパク質の合成 細胞の分化と遺伝子	63~73
6	11/30 12/1	4	ヒトの体を調節するしくみ 体内環境	74~99
7	12/7.8	4	ヒトの体を調節するしくみ 神経系による情報伝達	74~99
8	12/14.15	5	免疫のはたらき 免疫のしくみ	100~105
9	12/21.22	5	免疫の応用 免疫とさまざまな疾患	106~119
10	1/11.12	6	生物の多様性と生態系 植生と遷移 バイオーム	120~165

◇テスト範囲

中間	レポート 1, 2, 3	期末	レポート 4, 5, 6
----	--------------	----	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。

観点別評価①【知識・技能】主としてテストによる学習の定着度から評価します。
A:よく学習しているもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価②【思考・判断・表現】レポートの取り組みから総合的に判断します。
A:しっかり取り組んでいるもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価③【主体的に学習に取り組む態度】出席状況と学習態度を合わせて評価します。
A:出席状況がよく、積極的に学習に取り組んでいるもの
B:合格基準を超えたもの C:合格基準に達しないもの

◇使用教科書

新編 生物基礎 東京書籍

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	地学基礎	前期2単位	6	10	8

◇科目の目標

「地球」を中心に見据えた観点から、自然界の成り立ちについて理解を深める。天文、地震、火山気象に関する諸課題を扱い、基本的な概念や原理を理解させるとともに、科学的な自然観を育てる。

◇科目の概要

天文、地震、火山、気象に関して、基本的な概念や原理を学習する。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。スクーリングに参加し、理解を深める。

◇履修にあたっての留意点

教科書をよく読み、理解を深める。実験や観察をしていくのが理科の基本であるが、時間的な制約があるので、NHKの高校講座などを参考にしていく。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポート	授業内容	教科書
1	4/27.28	1	1編 私たちの大地	12~23
2	5/4.5	1	1編 私たちの大地	24~49
3	5/11.12	2	2編 私たちの空と海	50~59
4	5/18.19	2/3	2編 私たちの空と海／3編 私たちの宇宙の誕生	60~87
5	5/25.26	3	3編 私たちの宇宙の誕生	87~95
6	6/22.23	4	4編 私たちの地球の歴史	96~109
7	6/29.30	4	4編 私たちの地球の歴史	110~115
8	7/6.7	5	5編 地球に生きる私たち	116~135
9	7/13.14	5/6	5編 地球に生きる私たち	136~151
10	7/20.21	6	5編 地球に生きる私たち	152~169

◇テスト範囲

中間	レポート 1, 2, 3	期末	レポート 4, 5, 6
----	--------------	----	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。

観点別評価①【知識・技能】主としてテストによる学習の定着度から評価します。

A:よく学習しているもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価②【思考・判断・表現】レポートの取り組みから総合的に判断します。

A:しっかり取り組んでいるもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価③【主体的に学習に取り組む態度】出席状況と学習態度を合わせて評価します。

A:出席状況がよく、積極的に学習に取り組んでいるもの

B:合格基準を超えたもの C:合格基準に達しないもの

◇使用教科書 地学基礎(東京書籍)

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	地学基礎	後期2単位	6	10	8

◇科目の目標

「地球」を中心に見据えた観点から、自然界の成り立ちについて理解を深める。天文、地震、火山気象に関する諸課題を扱い、基本的な概念や原理を理解させるとともに、科学的な自然観を育てる。

◇科目の概要

天文、地震、火山、気象に関して、基本的な概念や原理を学習する。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。スクーリングに参加し、理解を深める。

◇履修にあたっての留意点

教科書をよく読み、理解を深める。実験や観察をしていくのが理科の基本であるが、時間的な制約があるので、NHKの高校講座などを参考にしていく。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポート	授業内容	教科書
1	10/5.6	1	1編 私たちの大地	12~23
2	10/12.13	1	1編 私たちの大地	24~49
3	10/19.20	2	2編 私たちの空と海	50~59
4	10/26.27	2/3	2編 私たちの空と海/3編 私たちの宇宙の誕生	60~87
5	11/2.3	3	3編 私たちの宇宙の誕生	87~95
6	11/30.12/1	4	4編 私たちの地球の歴史	96~109
7	12/7.8	4	4編 私たちの地球の歴史	110~115
8	12/14.15	5	5編 地球に生きる私たち	116~135
9	12/21.22	5/6	5編 地球に生きる私たち	136~151
10	1/11.12	6	5編 地球に生きる私たち	152~169

◇テスト範囲

中間	レポート 1, 2, 3	期末	レポート 4, 5, 6
----	--------------	----	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。

観点別評価①【知識・技能】主としてテストによる学習の定着度から評価します。

A:よく学習しているもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価②【思考・判断・表現】レポートの取り組みから総合的に判断します。

A:しっかり取り組んでいるもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価③【主体的に学習に取り組む態度】出席状況と学習態度を合わせて評価します。

A:出席状況がよく、積極的に学習に取り組んでいるもの

B:合格基準を超えたもの C:合格基準に達しないもの

◇使用教科書 地学基礎(東京書籍)

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
理科	物理基礎	通年3単位	9	14	12

◇科目の目標

物理や物理現象に対する探究心を高め、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。

◇科目の概要

物体の運動とエネルギー、さまざま物理現象とエネルギーについて学ぶ。

◇学習の進め方

教科書を中心に学習を進め、レポートを作成する。

◇履修にあたっての留意点

教科書をよく読み、面接での解説を聞き、理解を深める。

◇スクーリング計画

回	月日	レポート	スクーリング内容	教科書
1	4/27.28	1	1編 1章 直線運動の世界（速度・等速度）	p10~25
2	5/4.5	1	1章 直線運動の世界（等加速度）	p10~25
3	5/11.12	2	1章 直線運動の世界（自由落下）	p26~33
4	5/25.26	2	1章 直線運動の世界（鉛直水平投射）	p26~33
5	6/22.23	3	2章 力と運動の法則（力とは・法則）	p34~73
6	6/29.30	3/4	3章 仕事とエネルギー（仕事）	p34~91
7	7/6.7	4	3章 仕事とエネルギー（エネルギー）	p74~91
8	7/13.14	5	2編 1章 熱	p94~107
9	10/5.6	6	2章 波（波動）	p108~133
10	10/12.13	7	3章 電気（電流・抵抗・オーム）	p134~145
11	11/2.3	7/8	3章 電気（電力・電力量・磁場）	p134~155
12	11/30.12/1.	8	3章 電気（電流と磁界・電磁波）	p146~155
13	12/7.8	9	4章 エネルギー（交換と保存）	p156~165
14	12/14.17	9	4章 エネルギー（放射線・利用）	p156~165

◇テスト範囲

前期	レポート 1.2.3.4.5	後期	レポート 6.7.8.9
----	----------------	----	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。

観点別評価①【知識・技能】主としてテストによる学習の定着度から評価します。
A:よく学習しているもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価②【思考・判断・表現】レポートの取り組みから総合的に判断します。
A:しっかり取り組んでいるもの B:合格基準を超えたもの C:不合格

観点別評価③【主体的に学習に取り組む態度】出席状況と学習態度を合わせて評価します。
A:出席状況がよく、積極的に学習に取り組んでいるもの
B:合格基準を超えたもの C:合格基準に達しないもの

◇使用教科書 物理基礎（東京書籍）